

須坂新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

須坂東高等学校、須坂創成高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 11 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 11 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

須坂創成高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、専門科と新たな普通科（仮称：みらいデザイン科）の連携を実現していくために、須坂創成高等学校の施設・設備を活用する。

部活動など生徒の自主的活動のため、引き続き旧須坂商業高等学校のグラウンドや体育館等の施設を活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科・みらいデザイン科（仮称）

4 学科あわせて 7 学級程度を想定

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

みらいデザイン科（仮称）は、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により設置可能となった「新たな普通科」の 1 つである、地域社会に関する学科[※]として設置する。また単位制を導入し、他学科の授業も選択できる、個別最適な学びにふさわしい教育課程を編成する。

北信地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7 学級程度が想定される。

注）現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。

5 学びのイメージ

別紙のとおり

地域をフィールドとした探究を学びの中心に据え、「実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校」を構想する。

6 施設整備

新校の学びに必要な施設及び、地域連携の実現のため必要な機能の整備を図る。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

| | |
|-----|---|
| 生徒像 | 育てたい ○ 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒 ○ 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒 ○ 多様な他者とながら、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒 |
|-----|---|

| | |
|-----|---|
| 学校像 | 目指す ○ 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む ○ 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む ○ 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む |
|-----|---|



地域の未来を、地域の方々と共に創る
コミュニティデザインハイスクール



4 学科の連携で地域の未来づくりに参画



| | |
|------|--|
| 学びの柱 | ◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開 ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施 ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用 |
|------|--|

| | |
|--------|---|
| 具体的な取組 | ○ 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など） ○ 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び） ○ 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など） ○ 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動） ○ 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐 ○ 地域との協働による生涯学習の拠点づくり |
| 単位制 | 学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化 |
| 連携 | 学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携 地域を学ぶ国内外の高校生と交流 |

地域の方々との共同研究

須高地域共学共創コンソーシアム

新校が生涯学習の拠点

